

# 日本沿岸域学会 研究グループ 研究計画提案書

平成 19年 3月 29日

研究テーマ	高い経済成長の渦中にあるベトナムの沿岸域開発の記録と環境・防災問題						
<b>目的</b>	<p>ベトナム経済は、アジア通貨危機の余波で一時期成長が鈍化したものの、1986年のドイモイ政策以来、高い経済成長を記録しており、本年1月のWTO加盟により今後の経済成長がより一層加速すると考えられている。グループメンバーのうち4名が昨年ベトナムの海岸線の一部を調査した結果では、現在の沿岸域の開発状況は比較的穏やかであり、至る所で大規模開発が進行しているような状況下にはないと考えられる。しかし、ベトナムの国土が南北に長大な海岸線を有することからしても、今後の高い経済成長に後押しされて、港湾開発等の沿岸域開発が急速に進行していくことは容易に想像がつくことである。このような開発が進行することで、環境や防災の観点からは負のインパクトが不安視される。特に、ベトナムの海岸線はメコン河や紅河をはじめとする大小様々な河川からの土砂供給と海岸漂砂により、現在は動的な均衡を保っているが、流域の開発や沿岸域の開発が進行するに伴って局所的な不均衡が発生し、それが長大な海岸線全体へと連鎖していく危険性を内在していると懸念される。本研究は、このように沿岸域の環境や防災の観点からも大きな転換期に差し掛かりつつあるベトナムの現在を記録して、将来のベトナム沿岸域の環境や防災の諸研究に有用な資料を提供することを目的とする。</p>						
<b>活動内容</b>	<p>活動前半では、別途実施したベトナムの海岸踏査やグループメンバー間のメールによる情報交換、衛星画像等の情報に基づいて、ベトナムの海岸線の開発状況の現況について分析する。後半では、主にベトナム側参加者からの情報に基づいて、今後予定されている沿岸域や流域の開発計画概要や開発地点の把握を行っていく。以上の情報を集約して、日本の過去の経験と照らし合わせながら、将来予想される沿岸域の環境や防災の諸問題について議論を行っていく。</p>						
<b>グループの構成</b>							
	<b>氏名</b>	<b>会・非</b>	<b>専門分野</b>	<b>所属・役職 (平成19年4月時点)</b>	<b>住所</b>	<b>電話番号</b>	<b>FAX番号</b>
<b>世話人</b>	高木 泰士	会	海岸工学	横浜国立大学大学院環境情報研究院・特別研究教員			
<b>グループ構成員</b>	佐々木 淳	会	水環境工学	横浜国立大学大学院工学研究院・准教授			
	Nguyen Danh Thao	非	海岸工学	横浜国立大学大学院工学府・博士課程学生			
	Nguyen Van Cu	非	海岸工学	ベトナム科学技術アカデミー・ディレクター			
	Le Van Cong	非	海岸工学	ベトナム科学技術アカデミー・主任研究員			
	Nguyen Ngoc An	非	水工学	ホーチミン市立工科大学・学科長			
	Nguyen The Duy	非	海岸工学	ホーチミン市立工科大学・上級講師			
	島谷 学	会	水環境工学	五洋建設(株)技術研究所・主任研究員			
	松丸 亮	非	国際開発マネジメント	(有)アイ・アール・エム・代表取締役			
<b>顧問</b>	柴山 知也	会	海岸工学・国際開発工学	横浜国立大学大学院工学研究院・教授			
<b>日程表</b>	<b>研究期間</b>	平成 19年 6月～平成 21年 3月		<b>開催頻度</b>	期間中に1回程度ベトナムにて研究集会を開催する。その他随時メールにて打ち合わせを実施する。		
	<b>開催場所</b>	未定		<b>研究運営費</b>			